様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：２７４０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2017
課題番号：２６７７００８２

研究課題名（和文）熊本藩領の河川流域における書物の伝播と知的生活

研究課題名（英文）Propagation of the book and an intellectual life in rivers basin of Kumamoto Clan

研究代表者
大島　明秀（OSHIMA, Akihide）

熊本県立大学・文学部・准教授

研究者番号：５０５０８７８６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、熊本県に流れる二つの河川流域に伝存する和漢籍コレクションを分析対象とした。
最終的に258点（1176冊）に及んだ菊池市蔵和漢籍については、版本の刊記、写本の奥書、蔵書印や識語に至るまで採録した『菊池市生涯学習センター蔵和漢籍分類目録』を刊行し、漢籍や歴史、文学関係の書物が多く伝存していることを明らかにした。
1600点以上に及んだ美里町恵照寺蔵の古文書・和漢籍については、手書きで書誌を採録し、文書と典籍を弁別しながら、その入力作業を進め、簡易目録を完成した。結果、予想通り、仏教系（浄土真宗）関連の書物が多いことが判明した。

研究成果の概要（英文）：This study deals with two collections of Japanese books and Chinese classics printed and manuscript in Edo period, in rivers basin of Kumamoto prefecture.
One is 258 titles(1,176 books) kept by Kikuchi city in Kumamoto prefecture. As a result of publising a catalog about 258 titles, it was revealed most of these books are Chinese classics.
The other is above 1,600 titles by Esho-ji in Misato-machi in Kumamoto prefecture. As a result of making a simple list about 1600 titles, it was revealed most of these books are Buddhism(the Jodo-Shin sect).

研究分野：日本近世史

キーワード：和本　漢籍　書誌　蔵書印　肥後　熊本

１．研究開始当初の背景

（１）これまで、近世後期まで日本に存在しなかった「鎖国」という言葉に着目した上で、この言葉を誕生させた写本・志筑忠雄訳「鎖国論」(1801 成）を追究してきた。全国に眠っていた 94 点の現存写本を発掘し、写本の普及と読書の様相、また、それに伴う「鎖国」という言葉の広がりを究明し、一連の成果を『「鎖国」という言説―ケンペル著・志筑忠雄訳『鎖国論』の受容史―』（ミネルヴァ書房、2009 年）として結実させた。この経験から、書物の普及と読書の様相について理解と興味を深めてきた。また、研究過程で書誌学や古文書学（くずし字、異体字、篆刻の解読に至るまで）の技術と経験も獲得した。

（２）近世・近代初期の肥後地域史に取り組む中で、現在では自動車無しではとても行きえないような奥深い内陸地域にも、古典籍が豊かに眠っている事実にしばしば行き当たった。その際、古典籍の主要な運送ルートを考えると、河川（水運）の存在に気が付いた。ところが、地域の「河川水運」とモノの運送に関する研究自体が進んでおらず、なおかつ「河川水運」と「書物の普及」を結びつけるような研究が皆無であった。

（３）かかる折に、「緑川」流域に所在する「恵照寺」蔵書の存在についての情報を入手した。早速現地に向かい、予備調査したところ、概算で 1000 点前後の古典籍の存在が確認でき、内容は近世期の版本・写本にとどまらず、中には端本ながら古活字版と目される書籍まで所蔵されていた。

以上の背景から、「緑川」流域の「恵照寺」蔵書を資料とした、地域における書物の伝播と読書実態の事例研究の着想に至った。

２．研究の目的

近世日本は、同時代の世界に類を見ないほど流通網が発達し、地方にまでモノが行き渡っていた。特に人々の生活を担ったのは、陸運と「水運」であった。

特に地域においては、河川を利用して内陸の奥深い地域までモノを運んでいた。ここから、これまで看過されがちであった「河川水運」に着目し、その流域にどのような知や読書生活が広がっていたのかを究明することを志した。具体的には、肥後における大動脈であった「緑川」流域に伝存する近世の「古典籍」の目録を作成し、実態解明を目指した。

この究明により、以下三点の結果と意義を予想した。

（１）「恵照寺」蔵書の実態を把握することで、熊本藩領の都市部ではなく地域における知の伝播に関する実態が明らかになる。すなわち、かかる奥地に、どのような書物が、いつ、どこから、どうやって、どれほどの量が購入されたのか、についてが解明される。この成果は一事例にとどまらず、近世日本の地域における知の水準を理解するための１つの地域モデルともなる。

（２）第二に、近世における肥後の歴史を、河川（「水運」）のルートから見直す研究視座が開かれる。この事例も、水と共生してきた日本の各地域を正しく見定め、河川（「水運」）から再考する歴史研究の機運を各地で高めることが予想される。

（３）近世の地域における識字率研究、商業史研究など、関連分野に益するものとなることが予想される。

３．研究の方法

これまで中津市、水俣市、臼杵市など様々な地域で行ってきた古典籍調査で用いたカードやノウハウなど書誌学・文献学の技術を活用して、現地で法量、巻数、冊数、内題、外題、柱題、刊行（成立）年次、刷、刊記、奥書、貼紙、蔵書印、識語に至るまでカードに採録する。

詳細に採録する理由は、とりわけ刊記は近世出版に係る基本情報で、書物史・出版史研究への情報提供となるからである。また、奥書は写本成立と転写に係る重要情報であるからである。

蔵書印は書物の伝来経緯を示すものとして最重要資料であり、識語は読者の購入事情や入手経路を解明するための手掛かりとなるからである。

こうしてカードに採録した詳細な書誌情報は、学生アルバイトを雇用して電子データに変換する。その後、その目録を元に、さらに詳細な書誌を採録し、電子データに反映させる。

また、歴史学の技術を用いて、「恵照寺」蔵文書に、書籍がいかにして搬入されたのか、その背景を調査する。

４．研究成果

熊本藩に流れる河川で大動脈とされていたのは「緑川」に加え、「菊池川」でもあったことから、初年度から研究計画を拡大して、「菊池川」流域における書物コレクションも並行して追究することとした。

結果、菊池市中央公民館旧図書室に、和漢籍が数十年間死蔵されている事実を突き止めた。ただし、典籍は昭和期の洋装本 6,000 冊と混在する状況にあった。よって、調査対象を明治十年代以前の和装本に対象を絞り、ここから 1,000 冊を拾い出すことから研究が始まった。

1,000 冊は諸々の場所から発掘されたため、

後から後から既に整理した本の端本であることが判明することがままあり、何度も物理的な整理や書誌採録をやりなおす事態に陥った。

平成 27 年 3 月に『菊池市中央公民館蔵和漢籍目録 第一稿』を刊行し、簡易的ながらもコレクションの全貌を明らかにすることに成功した。

ただ、その後、さらに約 170 冊の和漢籍が新たに発見され、整理をやりなおすことになった。また、平成 29 年に生涯学習センターが新設されることになり、既に整理した 1,000 冊と合わせて、これらを移管・保管するよう指導したが、移管のため途中作業は中断することとなった。

それでも、平成 29 年 12 月頃には目録作成作業を完成し、各書物の書誌を蔵書印、識語、刊記、奥書、刷、版に至るまで詳細に採録した『菊池市生涯学習センター蔵和漢籍分類目録』を平成 30 年 3 月に刊行した。最終的に、和漢籍は総計 258 点（1,176 冊）に及んだ。

これまでに類のない詳細目録作成の狙いは、書籍自体の情報提示に加え、その所有主、ならびに購入や読書、あるいは書写した日時・場所に関する情報まで読者に提供することにある。

目録ではこの書籍群を『内閣文庫国書分類目録』に準じて 15 種に分類した。内訳は、総記 2 点、神祇 6 点、仏教 30 点、言語 5 点、文学 32 点、音楽・演劇 15 点、歴史 31 点、地理 1 点、政治・法政 3 点、経済 2 点、教育 10 点、医学 2 点、芸術 8 点、武学・武術 3 点、漢籍・準漢籍 108 点となった。

古くは 17 世紀の本も見られるものの、珍本・稀本は少なく、むしろ学問の基本文献が揃っていることに蔵書の特色がある。すなわち、資料を個々ではなく、蔵書構成という視点から全体を「コレクション」として捉えてみると、主に地元の寄贈から成り立つこの「コレクション」を、菊池が「文教の府」であることを物語る「教育資料」と見ることができる。

また、個々に目をやると、例えば、浄瑠璃本が一定数残っている背景には、桜座を中心に芝居が盛んに行われていた、去りし日の菊池の文化が横たわっていることに気付く。はたまた、書籍への書き込みや蔵書主に視点を移してみると、地元の神職渋江家の写本や、阿蘇山学頭の識語、熊本藩校時習館の蔵書印などを発見できる。こうして見ると、蔵書群はただの「古典籍」の集積ではなく、今は失われた菊池や熊本の記憶を甦らせうる潤沢な情報を含んだ「郷土資料」ともなりうるのである。

さらに観点を変えてみると、幕末明治の歴史家・内藤耻叟の旧蔵本であることを示す記述や、延暦寺吉祥院、東京大学（帝国大学以前）ならびに旧制一高の蔵書印が認められ、そこには、幾多の手を経て菊池に辿り着いた書物の運命が見て取れ、ここに至って、蔵書群は菊池と外との繋がりを豊富に含んだ「歴史資料」と見ることも可能となる。以上の三点から、菊池市蔵コレクションの位置づけを行うことができた。

また、この成果は、目録のほか、「近世・近代における菊池の文教―地域調査、古典籍調査の成果を通して―」（菊池市生涯学習センター、2018 年 1 月 18 日）と題した一般講演を行うことで地域還元した。なお、生涯学習センターへ移管した古典籍は、保管・出納体制を指導し、2018 年 5 月から一般市民に古典籍を提供できるよう整えた。

「恵照寺」蔵書については、手書きカード採録と電子入力、簡易目録の作成に取り組んだ。途中、平成二十八年熊本地震が起こり、現地へ赴くことが困難になったが、手書きカードを丁寧に整理し、また、文書と典籍が通番で番号が付されていたため、これを弁別し、典籍のみの目録作成にいそしんだ。また、カード上では詳細に書誌を採録してあるが、まずはコレクション全体の把握を第一に考えたことと、点数が多いこと、さらには現地調査が困難につき現物との確認作業が難しいため、必要最小限の情報に限って簡易的な目録を作成する方針とした。

コレクション中の書籍は、文学や政治など様々なジャンルのものがある程度まんべんなく見られ、「水運」と「書物」の関係が窺えたが、やはり仏教、中でも宗門である浄土真宗関係（排耶蘇文献も含め）のものが多く確認できた。

日韓各地での古典籍コレクションや書誌に関する情報交換および理解の深化のため、ソウル大学の金時徳氏を研究室に招き、「熊本書物科研第 1 回研究会」（熊本県立大学、2017.1）と題した私的研究会を開いた。

以上、「水運」や「宗教」と地域への書物の伝播に関する一つの事例が示し得、地域における知の伝播や流通史の研究に大きな展開をもたらすものと考えられる。

なお、派生的な成果としては、書物群の中から浄土真宗の僧侶・原口針水旧蔵と見られる本が発見され、そこから針水の研究も並行して行い、その成果は「菊鹿の僧侶・原口針水の近代」（平成 26 年度熊本県立大学文学部フォーラム「それでも天は転る―熊本におけるもう一つの近代―」（熊本県立大学、2014 年 11 月 22 日）と題して発表した。

また、現在先方の意向で調査は不可能な状況ではあるが、菊鹿地域に所在する光照寺に原口針水旧蔵書が所蔵されていることを突き止めた。これらは今後地域における知識人（宗教）と書物・知識の伝播について、さら深めていく研究資源となり得るものと考える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　０件）

〔学会発表〕（計　１件）
① 大島明秀、菊鹿の僧侶・原口針水の近代、平成 26 年度熊本県立大学文学部フォーラム「それでも天は転る―熊本におけるもう一つの近代―」、熊本県立大学、2014.11.22.

〔図書〕（計　２件）
① 大島明秀、菊池市中央公民館蔵和漢籍目録 第一稿、菊池市教育委員会、査読無、2015、18p.
② 大島明秀、菊池市生涯学習センター蔵和漢籍分類目録、菊池市教育委員会、査読無、2018、53p.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
大島　明秀　（OSHIMA AKIHIDE）
熊本県立大学・文学部・准教授
研究者番号：50508786

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）